

2025年度3Q実績

2026年1月30日



本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」、ならびに、環境、社会およびガバナンスにかかる当社グループのサステナビリティに関する活動に関する記述（「サステナビリティに関する記述」）が含まれております。

多くの場合、これらの記述には、当社グループの将来に関する事項を表す「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績や結果を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績や結果は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績や結果に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようないわゆるリスクがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有する有価証券の時価の下落、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループの国内外におけるビジネス戦略が奏功しないリスク、提携・出資・買収および買収後の経営統合が奏功しないリスク等です。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」または「サステナビリティに関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。また、「サステナビリティに関する記述」における、当社グループのサステナビリティに関する取組については、当社グループのリスク管理およびその他の投融資等の目的を推進しそれらに対応することを目指す、当社グループが独自に決定した方針と方法に基づき行われ、また個々の決定は各法域において適用される法規制に基づき、それに従って行われます。

当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

為替レート（月末TTM）

	24/12末	25/3末	25/12末
1ドル	158.15円	149.53円	156.53円
1ユーロ	164.86円	162.05円	184.25円

※資本・リスクアセットの開示は2026年2月13日を予定しております。

本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ (持株会社)
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス＆リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
SMDAM	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
SMICC	SMFG India Credit Company
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国）
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
BC単体	三井住友銀行単体
経費（BC単体）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門（RT）	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門（WS）	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門（GB）	海外ビジネス
市場事業部門（GM）	市場関連ビジネス

損益の概要

	(億円)	25年度 1-3Q	前年 同期比	25年度 目標
1 連結粗利益		35,930	+4,307	
2 営業経費 (経費率)		▲18,992 52.9%	▲1,263 △3.2%	
3 持分法投資損益		1,080	+375	
4 連結業務純益	進歩率 88%	18,018	+3,420	20,500
5 与信関係費用		▲2,168	▲588	▲3,000
6 株式等損益		3,525	▲787	
7 その他		▲ 385	+754	
8 経常利益		18,991	+2,800	21,100
9 特別損益		▲ 48	+18	
10 税コスト		▲5,019	▲318	
11 親会社株主純利益	93%	13,948	+2,588	15,000
12 東証基準ROE		12.2%	+2.1%	
13 株主資本ROE		16.2%	+2.4%	

*1 BC海外支店PL（取引日レート）・海外現法PL（期末日レート）等の為替変動影響

● 連結粗利益 (為替影響^{*1}:▲90)

国内における預貸金収益の増加に加え、
国内ホールセールビジネスの手数料収入増加、
資産運用・決済ファイナンスビジネスの好調等により増益

● 営業経費 (為替影響^{*1}:△50)

インフレ影響や売上運動費等により増加するも、
トップラインの伸長により、経費率は大幅に改善

● 持分法投資損益 (為替影響^{*1}:▲10)

SMBCACにおける保険金受領（140）に加え、
ベトナム出資先の業績回復等により増益

● 与信関係費用

SMBCで引当の戻入あるも、海外の大口先への引当計上や
OTO/SOFの不良債権の一括処理（▲310）により増加

● 株式等損益

Kotak株式の売却益（940）を計上するも、
政策保有株式の売却益減少（2,740、YoY▲1,120）、
東亜銀行株式の売却に伴う損失計上（▲280）、
ETF売却益の減少（▲320）により減少

● その他

SMBCCFの過払債務に対する抜本的処理として、24年度に
計上した利息返還損失引当金（▲990）が剥落

(参考) 主要グループ会社の業績

SMBC

	(億円)	25年度 1-3Q	前年 同期比	25年度 目標
1 業務粗利益	20,376	+2,975		
2 うち資金利益	14,083	+2,318		
3 うち投資信託解約損益	466	▲160		
4 国内	8,099	+2,135		
5 海外	5,985	+182		
6 うち役務取引等利益	4,259	+213		
7 国内	1,791	▲2		
8 海外	2,469	+215		
9 うち特定取引利益 +その他業務利益	2,003	+439		
10 うち国債等債券損益	244	+108		
11 経費	▲8,361	▲533		
12 業務純益	12,015	+2,442	13,800	
13 与信関係費用	△294	△451	▲600	
14 株式等損益	3,334	▲777		
15 その他臨時損益	934	+642		
16 当期純利益	12,503	+2,368	12,900	

SMBC以外の主要グループ会社

(左: 25年度1-3Q実績、右: 前年同期比)						
(億円)	SMBC日興 ^{*1}		SMCC ^{*2}			
業務粗利益	4,339	+259	6,509	+399		
経費	▲3,451	▲115	▲4,604	▲517	(特殊要因除き) ^{*3}	
業務純益	888	+144	1,958	▲28	1,958	▲28
当期純利益	1,085	+335	764	+510	764	+95

(持分法適用)						
	SMBC信託		SMDAM		SMFL ^{*4}	50%
業務粗利益	585	+75	347	+33	2,954	+601
経費	▲342	▲23	▲252	▲8	▲1,295	▲282
業務純益	243	+52	95	+25	1,723	+287
当期純利益	191	+52	33	+9	918	+149

連結消去

- ✓ 大口の子会社配当：1,500億円（前年比+50億円）
- ✓ VP Bank 投資損失引当金の戻り：△900億円

*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース *2 SMBCCFの計数を含む

*3過払債務の抜本的引当 (24年度上期：▲880億円)、SMBCFSとの合併にかかる抱合せ株式消滅差益 (同：+466億円) を除く

*4 内部管理ベース

円金利上昇影響

12月の政策金利引き上げも合わせると、25年度の資金利益は前年比+1,300億円

今後は貸出金の残高・スプレッド増加や国債ポートフォリオの再構築等でさらなるアップサイドあり

政策金利+0.25%あたり +1,000億円／年

円貨B/S (25/12末)

運用

貸出金

70

市場運動

40

固定金利

20

プライム貸出等

10

市場性運用

60

日銀当座預金

50

短期国債

4

中長期国債

6

その他

10

円投等

調達

預金

125

普通預金

85

定期預金

25

当座預金

15

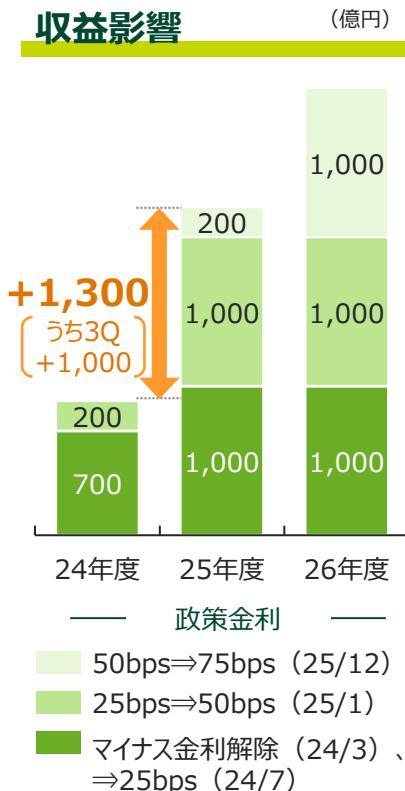
その他

15

資本性調達
市場性調達等

収益影響

(億円)



B/Sの構造変化による アップサイド

貸出金

堅調な需要の
捕捉による残高増加

国債等

金利上昇を踏まえた
ポジション再構築
による残高増加



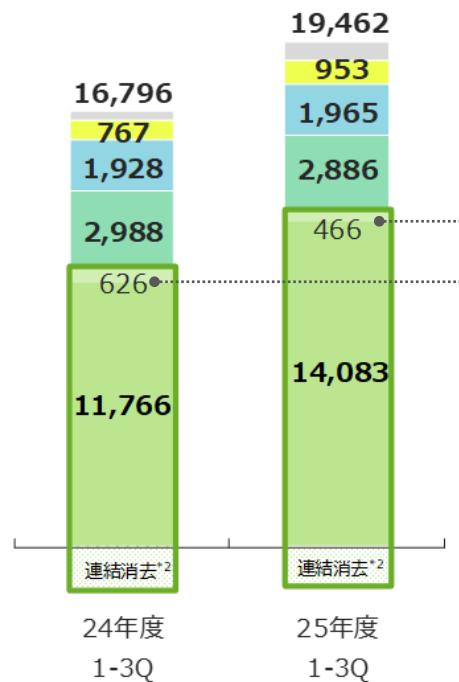
連結粗利益

資金利益は、国内貸出残高の増加や金利上昇により、SMBCで増益

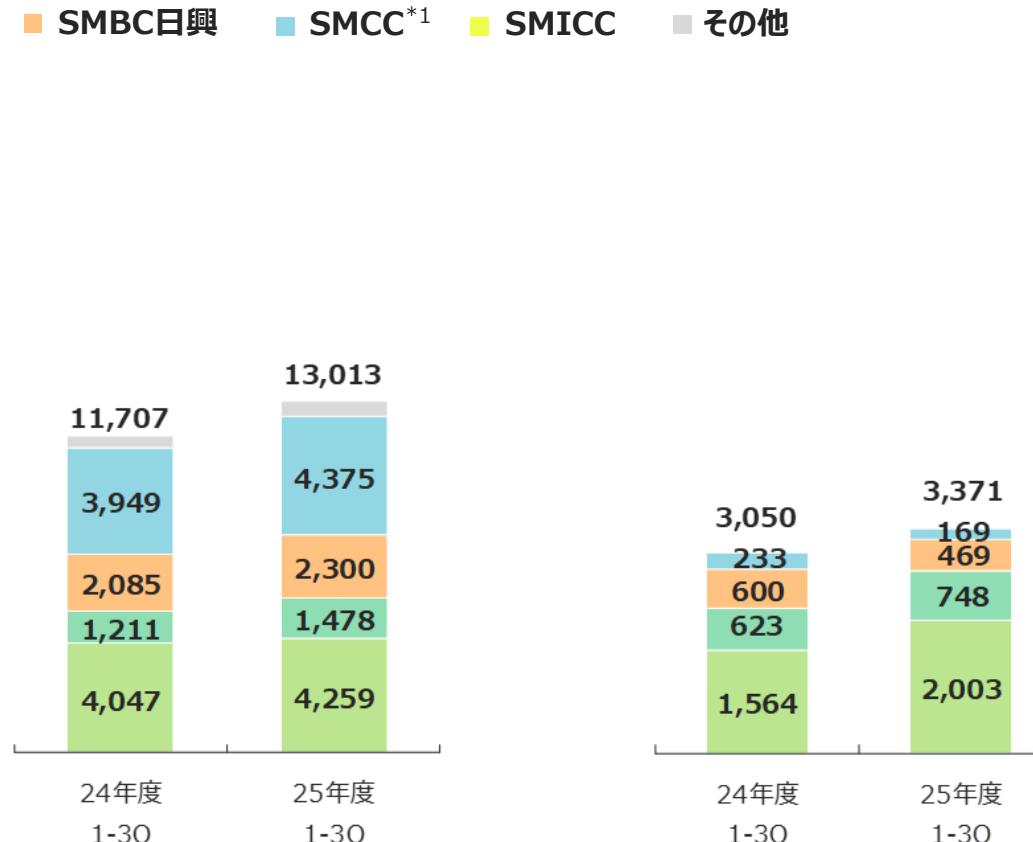
役務取引等利益は、活発なコーポレートアクションの捕捉やOlive効果により各社で増益

資金利益

(億円)



役務取引等利益



特定取引+その他業務利益

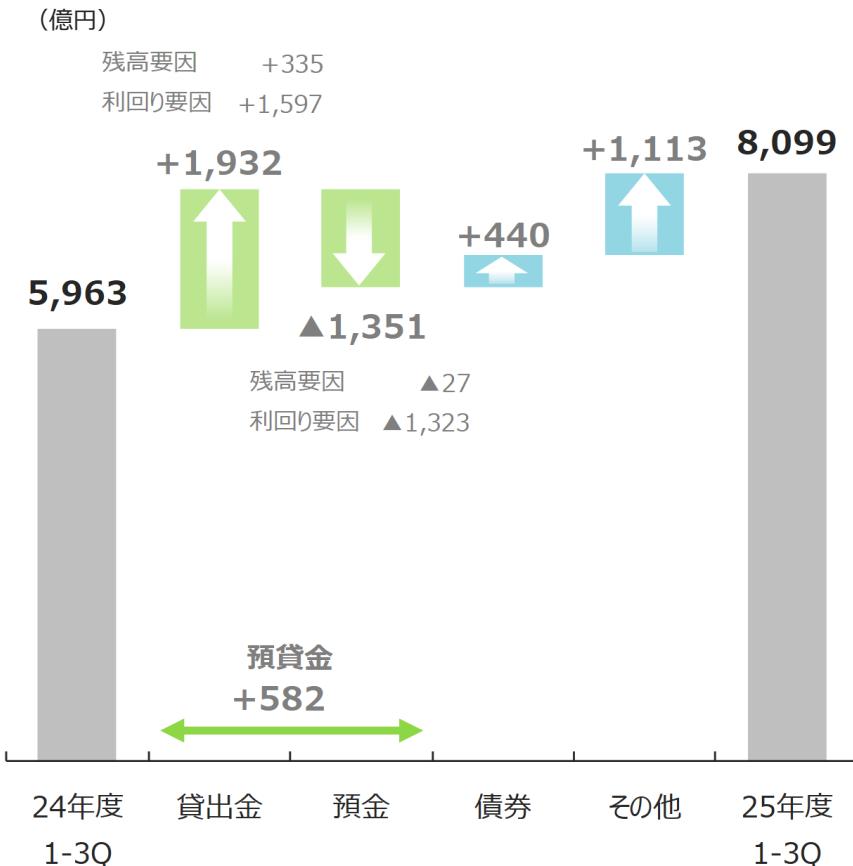
*1 SMBCCFの計数を含む

*2 一過性の子会社配当（24年度上期:1,450億円、25年度上期:1,500億円）を含む

(参考) 資金利益の増減要因 (BC単体)

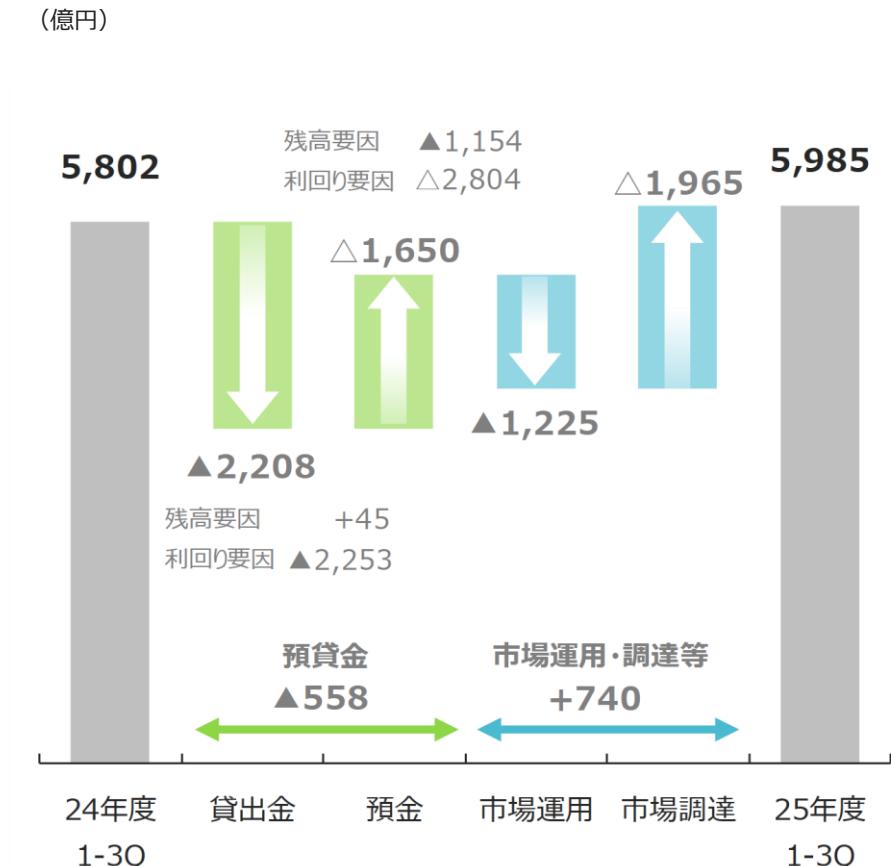
国内

- 市場金利上昇による預貸金利回り改善と
貸出金の残高増加により預貸金収益はプラス



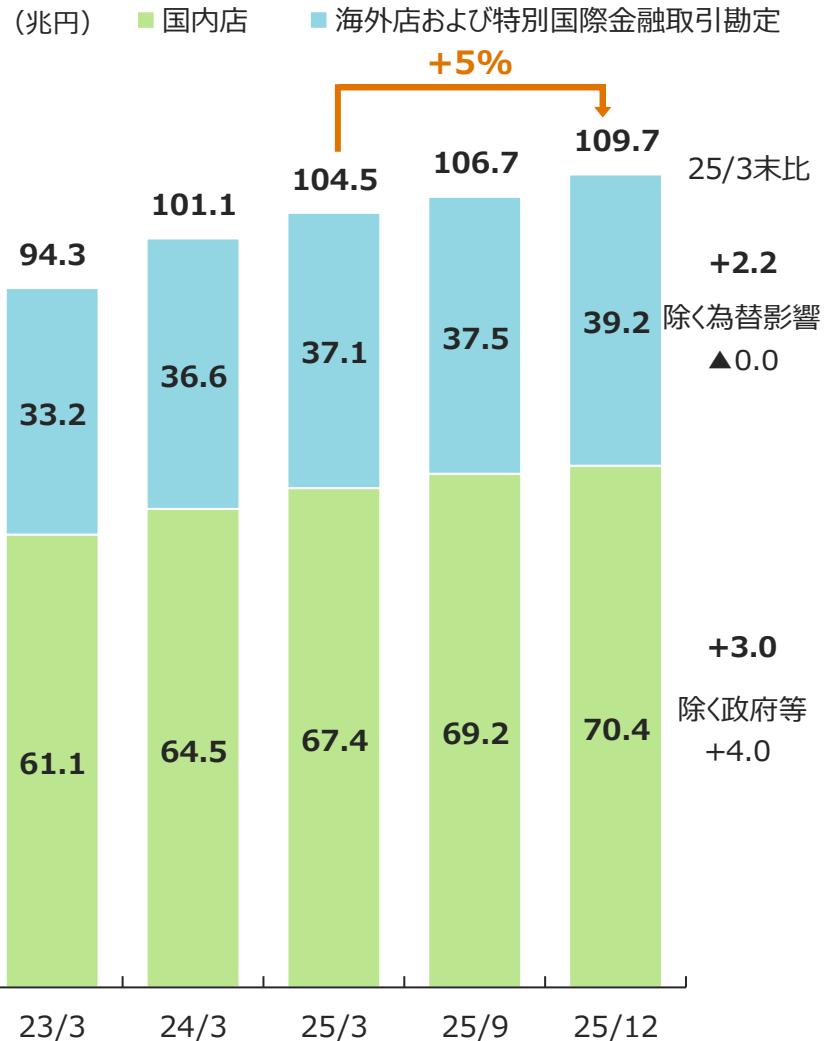
海外

- 欧米での利下げ影響に加え、外貨預金の残高増加により
預貸金収益はマイナス



貸出金*1

貸出金残高



*1 BC単体 *2 内部管理ベース

*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。貸出金・貿易手形・有価証券の合計。資金コスト対比のスプレッドを記載

*4 為替影響等調整後ベース

国内預貸金利回差

	25年度 1-3Q (%)	前年 同期比	1Q	2Q	3Q
貸出金利回	1.30	+0.32	1.26	1.30	1.34
預金等利回	0.19	▲0.14	0.18	0.19	0.19
預貸金利回差	1.11	+0.18	1.08	1.11	1.15
(参考) 政府等向け貸出金控除後					
貸出金利回	1.30	+0.30	1.27	1.30	1.34
預貸金利回差	1.11	+0.16	1.09	1.11	1.15

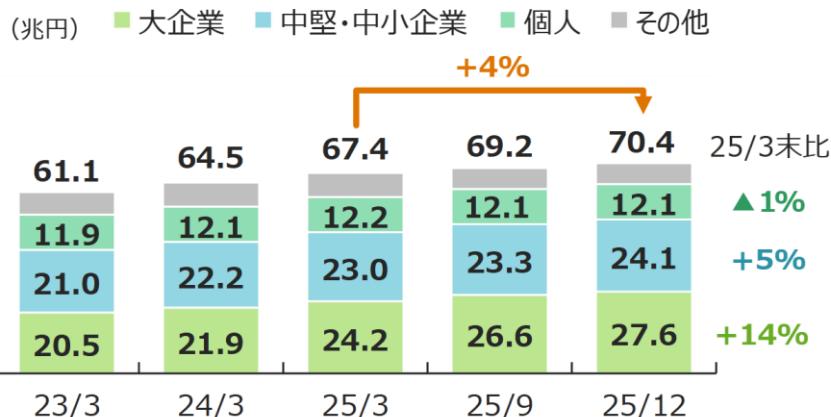
期中平均貸出金残高・スプレッド*2

	平均残高 (兆円)		スプレッド (%)	
	25年度 1-3Q	前年 同期比*4	25年度 1-3Q	前年 同期比
国内貸出	66.3	+4.1	0.68	▲0.01
うち大企業	25.9	+3.5	0.54	▲0.05
中堅・中小企業	23.0	+1.5	0.68	+0.02
個人	12.2	▲0.0	1.16	+0.00
海外運用資産 (億ドル) *3	3,630	+165	1.42	+0.11

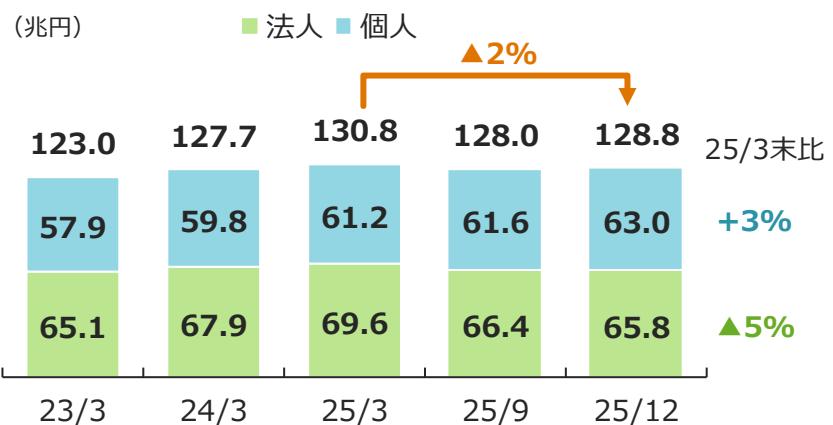
国内預貸金*1

活発な資金需要を捉え貸出金残高は堅調に推移、特に、大企業は大口案件の捕捉もあり大幅に増加
個人預金はOlive効果により増加するも、法人預金は上期に大口先の流出により減少

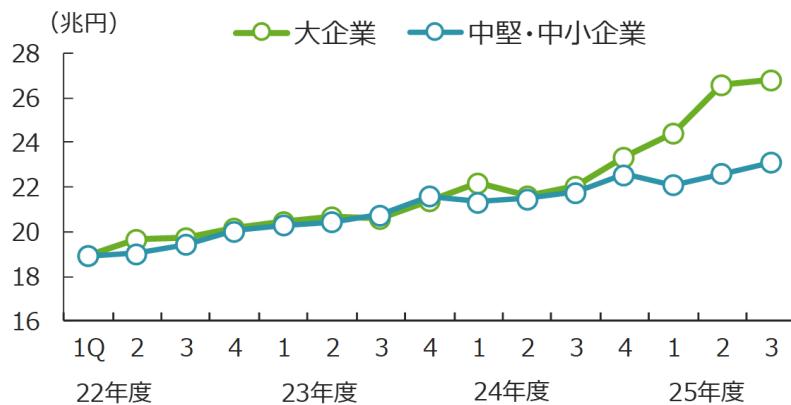
貸出金残高*2,3



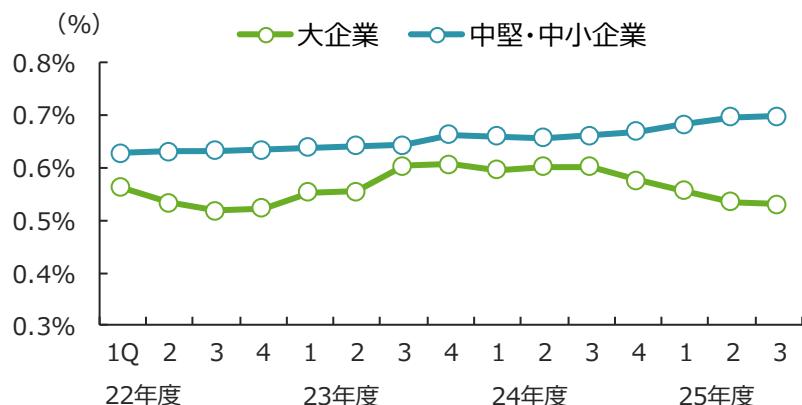
預金残高



法人向け平均貸出金残高*2,4



法人向け貸出金スプレッド*2,5



*1 BC単体 *2 内部管理ベース *3 25/9より中堅・中小企業の集計方法を変更、遡及反映を実施

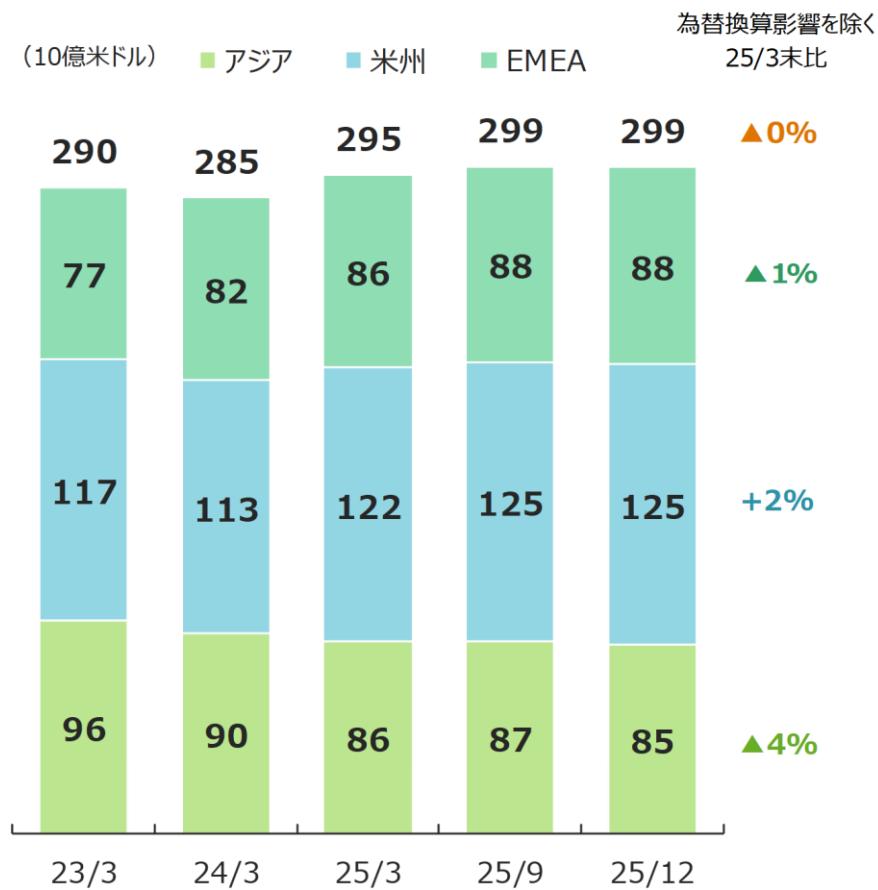
*4 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く

*5 ストックベース、政府向け等を除く

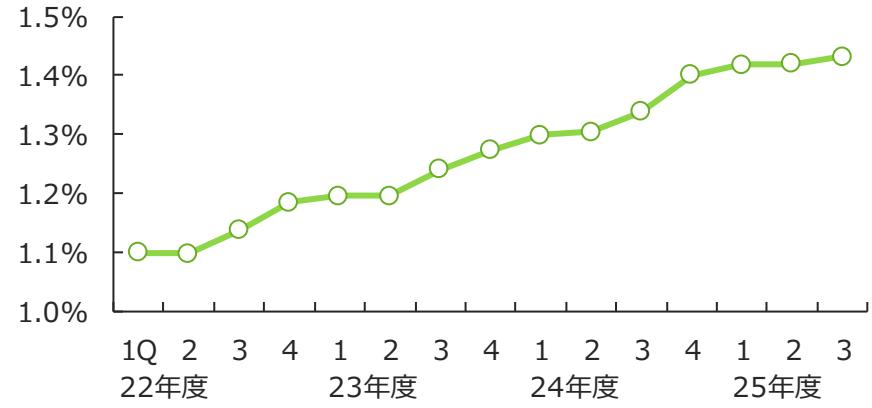
海外預貸金*1

アジアを中心として低採算アセットの削減が進捗し、貸出金残高は減少
ROEを重視した運営により、貸出金スプレッドは改善

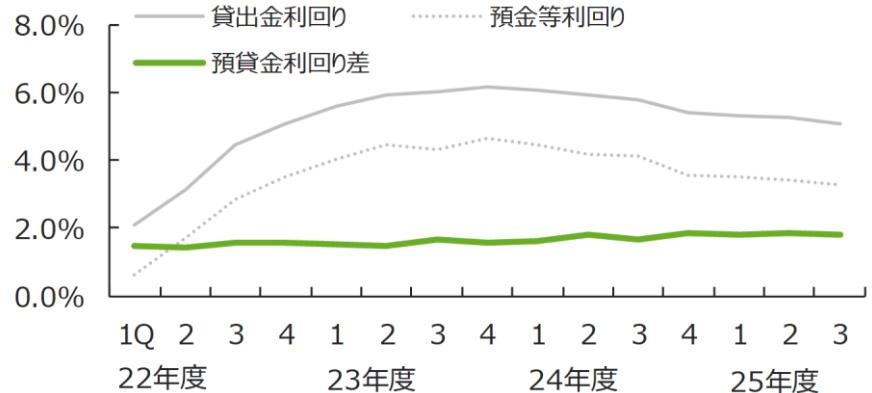
貸出金残高



貸出金スプレッド*2,3



預貸金利回り差



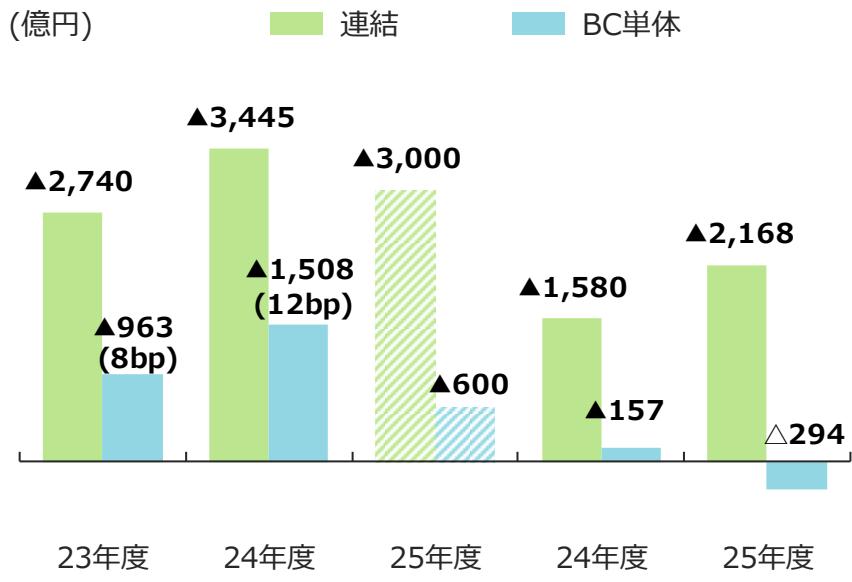
*1 内部管理ベース。SMBCと主要現地法人の合算 *2 ストックベース

*3 24年度より集計方法の変更、遡及反映を実施

アセットクオリティ

ブラジル等での大口個社の劣化やOTO/SOFの不良債権一括処理により、海外のコストが増加
一時的なコスト発生により下期に与信コストは増加するものの、通期ではコントロールする方針

与信関係費用



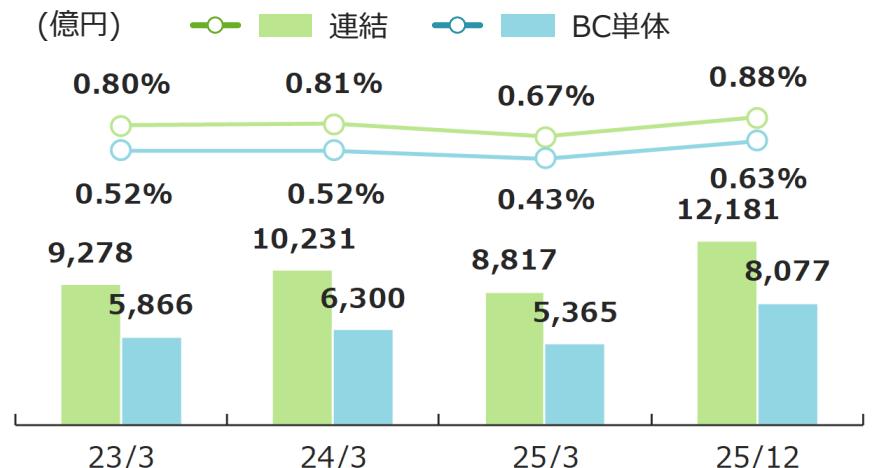
連単差の主な内訳（概数）

	(億円)	25年度1-3Q	前年同期比
SMCC		▲ 1,070	▲ 90
うちSMBCCF		▲ 630	▲ 70
海外銀行現法 ^{*1}		▲ 960	▲ 520
SMICC		▲ 360	▲ 140

*1 OTO/SOFの不良債権の一括処理（25年度3Q：▲310）を含む

*2 不良債権比率 = 銀行法および再生法に基づく債権残高（除く正常債権）／総与信 *3 内部管理ベース

不良債権比率^{*2}・残高



不良債権内訳（連結）^{*3}

	(億円)	(億円)	(億円)
国内	6,511	4,554	4,980
アジア	2,099	1,749	2,571
米州	845	1,175	3,312
EMEA	776	1,339	1,318

その他要注意先（除く要管理債権）

	(兆円)
BC単体	1.8

総与信未残

	(兆円)
連結	126
BC単体	120

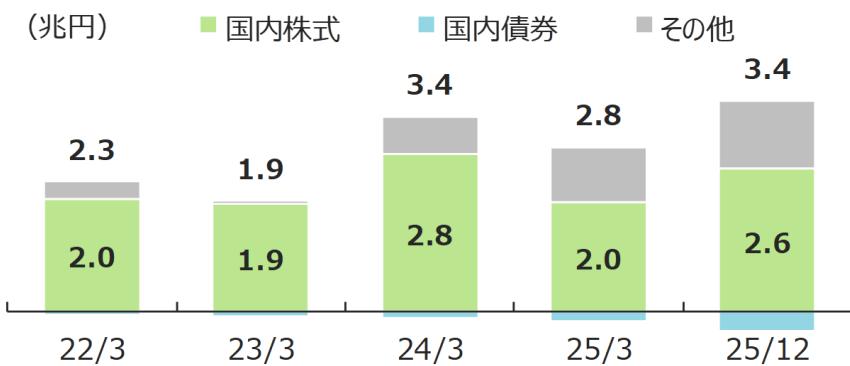
有価証券①

その他有価証券の内訳（連結）

(億円)	残高		評価損益	
	25/12末	25/3末比	25/12末	25/3末比
満期保有目的	35,234	+32,490	▲1,023	▲961
その他有価証券	364,082	▲33,686	35,438	+7,378
国内株式	36,111	+5,659	25,591	+5,982
国内債券	89,480	▲49,455	▲2,249	▲801
うち国債	65,385	▲46,420	▲980	▲456
その他	238,492	+10,111	12,096 ^{*1}	+2,197
うち外債	186,546	+12,299	▲3,228	+1,263

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

評価損益の推移



*1 外国債券との差額は外国株式等

*2 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く *3 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

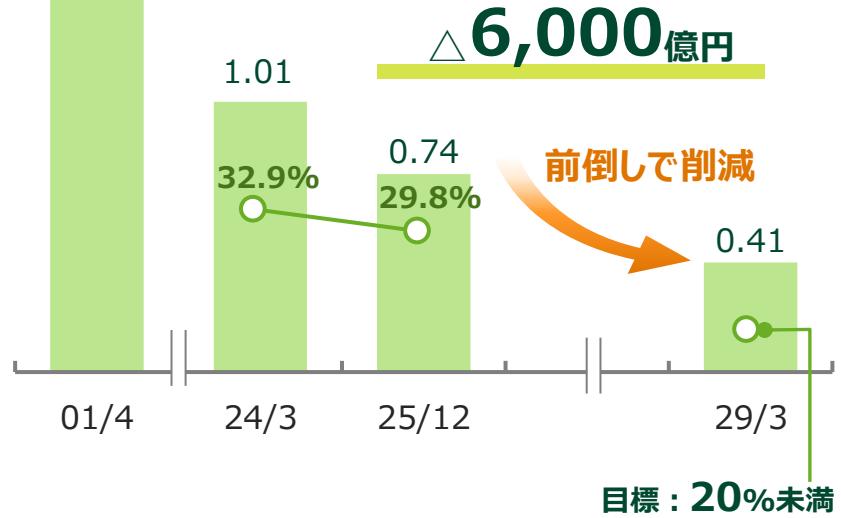
政策保有株式

(兆円) 国内上場株式簿価^{*2}
 政策保有株式時価残高^{*3} ÷ 連結純資産

削減状況

6.09	削減額	△2,760億円
	24年度	△1,850億円
	25年度1-3Q	△910億円
	応諾済未売却額	△620億円

計画 (24-28年度)



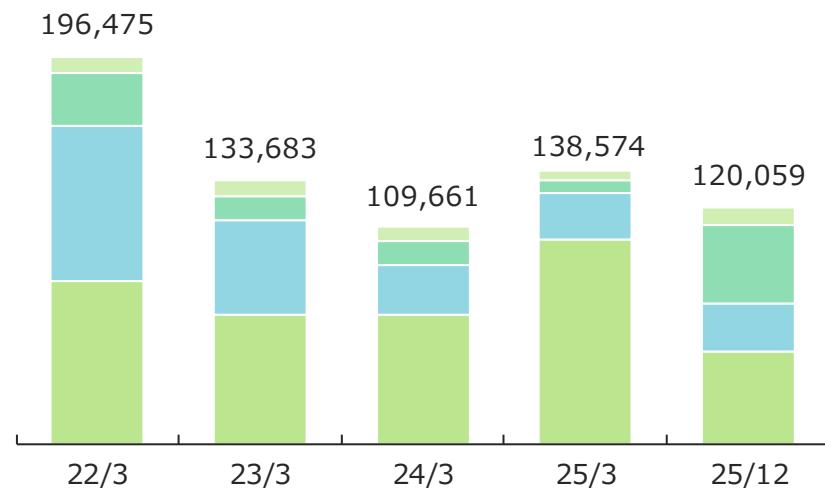
有価証券②

円債は、満期保有目的の購入が増加した一方、担保ニーズ低下による短期債保有の減少により、全体では残高減少・デュレーション長期化
今後の利上げスピードと到達水準を見極めつつ、本格的なポートフォリオ構築のタイミングを追求

円債（BC単体）

(億円)

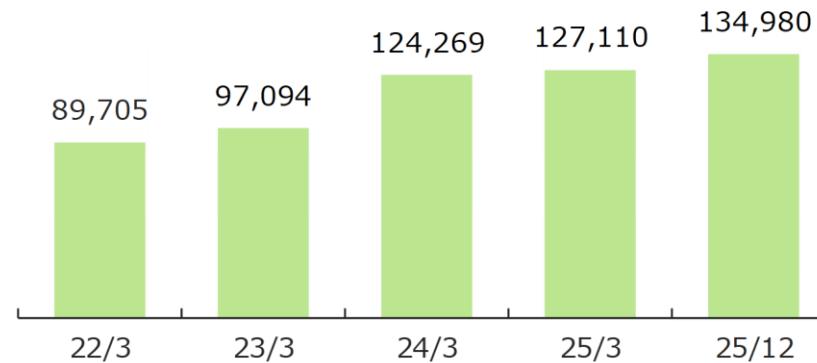
■ 1年以内 ■ 1年超5年以内 ■ 5年超10年以内 ■ 10年超



評価損益	▲ 628	▲ 987	▲ 1,421	▲ 3,117
デュレーション ^{*1}	2.4	2.1	1.0	3.2
満期保有残高	223	223	223	30,462
JGB残高 ^{*2}	95,763	75,474	111,805	63,562

外債（BC単体）

(億円)



評価損益	▲ 6,171	▲ 6,622	▲ 4,589	▲ 3,573
デュレーション ^{*1}	4.3	4.2	3.6	3.2

*1 内部管理ベース。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含まず

*2 満期保有目的を除く

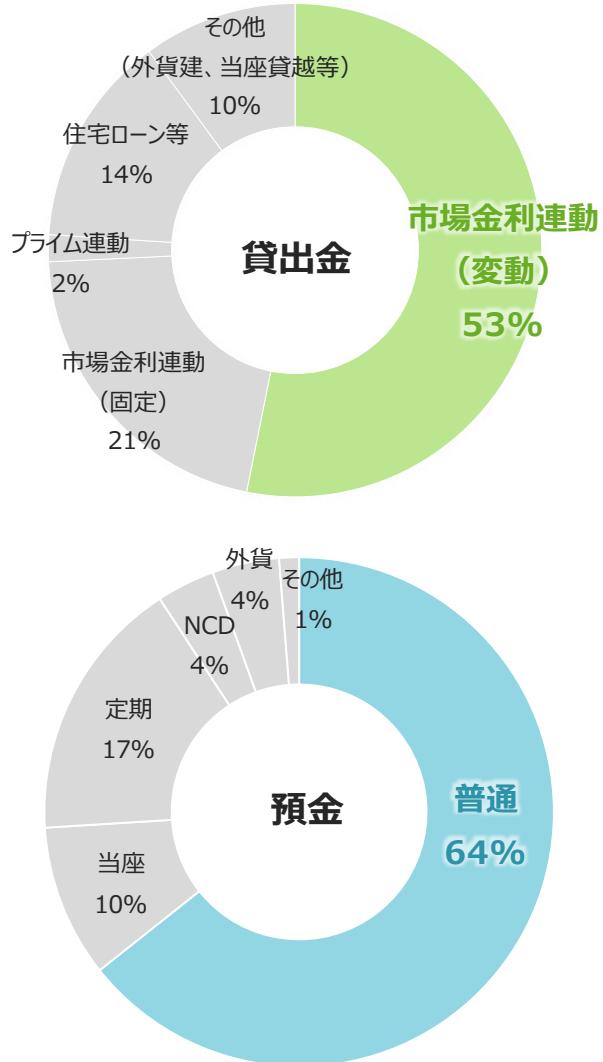
バランスシート

連結B/S

() 内は25/3末比

貸出金	預金
117.3兆円 (+6.2兆円)	193.3兆円 (+4.6兆円)
国内貸出金 ^{*1}	預貸率 60.7%
70.4兆円	
有価証券	
40.6兆円 (▲0.1兆円)	
国債	国内預金 ^{*1} 128.8兆円
外国債券	讓渡性預金 (NCD) 16.4兆円
6.5兆円	
18.7兆円	
その他	その他
158.7兆円 (+4.4兆円)	107.7兆円 (+4.9兆円)
現預金	純資産
日銀当座預金 ^{*1}	15.8兆円 (+0.9兆円)
69.3兆円	
49.1兆円	

1 預貸金の構成比 (BC単体) ^{*2}

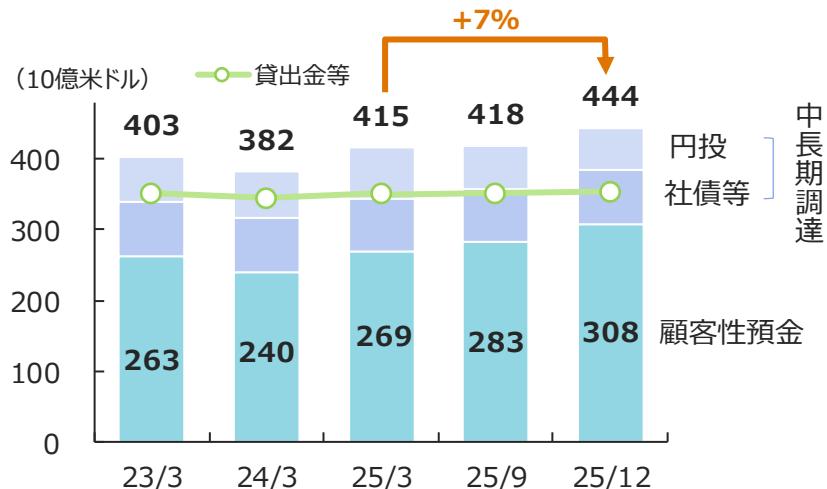


外貨流動性

外貨B/S *1,2

(10億米ドル、()内は25/3末比)	
貸出金	354 (+3)
顧客性預金 (含む中銀預金)	308 (+39)
中長期調達 (社債、円投等)	136 (▲10)
CD/CP	92 (▲6)
インターバンク (含むレポ)	97 (▲23)
外債、NCD	90 (▲1)
資産・負債	633 (+0)

外貨ファンディング



(参考) 外貨金利の変動影響

預貸金

- 貸出金・預金とも、大宗は基準金利連動
- 一部、金利感応度の低い流動性預金によって外貨金利±1.0%で資金利益±200億円

事業部門別実績①

■ リテール

- 金利上昇に伴う預金収益増加と、好調な資産運用・決済ファイナンスビジネスにより業務粗利益は増加
- コストコントロール施策の着実な積み上げにより経費率が改善、業務純益も増加

	25年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}	
	(億円)		
業務粗利益	11,194	+1,242	
預金収益	1,260	+887	
貸金収益 ^{*2}	534	▲84	
資産運用ビジネス	2,774	+227	
決済ビジネス	4,284	+198	
コンシューマーファイナンス	2,386	+128	
経費 (経費率)	▲8,291	▲475	
	74.1%	△4.5%	
業務純益	2,938	+785	
	24年度	25年度 1-3Q	中計目標
AM・外貨残高 (兆円)	18.8	22.6	21
コンシューマーファイナンス残高 (兆円)	2.8	3.0	3
Olive獲得件数	26/1 : 700万件突破		

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 コンシューマーファイナンスを除く

■ ホールセール

- 金利上昇や貸出金残高増加により預貸金収益は増加
- 活発なコーポレートアクションを捉えた手数料収益や証券ビジネスも好調で、業務粗利益・業務純益ともに増加

	25年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}	
	(億円)		
業務粗利益	8,745	+1,357	
預金収益	2,198	+1,010	
貸金収益	2,080	+175	
SMBC 外為・為替手数料	1,185	+28	
シンジケーション	387	▲2	
ストラクチャードファイナンス	359	+40	
不動産ファイナンス	155	+36	
証券	669	+22	
経費 (経費率)	▲3,010	▲151	
	34.4%	△4.3%	
業務純益	6,846	+1,268	
	24年度	25年度 1-3Q	中計目標
スタートアップ向け投融資 (累計・億円)	1,851	2,493	1,350

事業部門別実績②

■ グローバル

- 高採算案件を選別的に取り組んだ結果、資金収益・ローン関連手数料ともに増加
- インフレや規制対応コストを主因に経費率は悪化も、SMBCACの保険金受領により持分法損益も増加し、業務純益は増益

	25年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
(億円)		
業務粗利益	11,588	+808
預金収益	1,369	▲33
資金収益	4,364	+302
ローン関連手数料	2,221	+76
証券	834	+180
経費 (経費率)	▲7,689 66.4%	▲754 ▲2.0%
持分法投資損益	930	+331
業務純益	5,109	+410

	24年度	25年度 1-3Q	中計目標
米州本部業務純益 (百万米ドル)	1,653	1,265	+500

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後）

■ 市場

- ボラタイルな環境の中、機動的なポートフォリオ運営によりリスク量をコントロールし、着実にバンキング収益を蓄積
- 4月の相場急変時でのトレーディングの苦戦や、好調であった前年度の反動で業務粗利益・業務純益ともに減少

	25年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
(億円)		
業務粗利益	5,132	▲221
SMBC	3,542	+25
SMBC日興	995	▲177
経費 (経費率)	▲1,669 32.5%	▲170 ▲4.5%
業務純益	3,751	▲362

	24年度	25年度 1-3Q	中計目標
海外証券業務純益 (億円)	258	254	490

業績

	24年度 (億円)	25年度 1-3Q	前年 同期比
純営業収益	5,210	4,339	+276
販売費・一般管理費	▲4,352	▲3,451	▲123
営業利益	857	888	+154
うち営業部門	300	462	+199
GIB部門^{*3}	308	344	+154
GM部門^{*4}	250	▲45	▲294
経常利益	910	1,026	+256
当期純利益	733	1,085	+335
預り資産残高^{*5} (兆円)	81.0	93.0	

*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsなどの利益を含む内部管理ベース

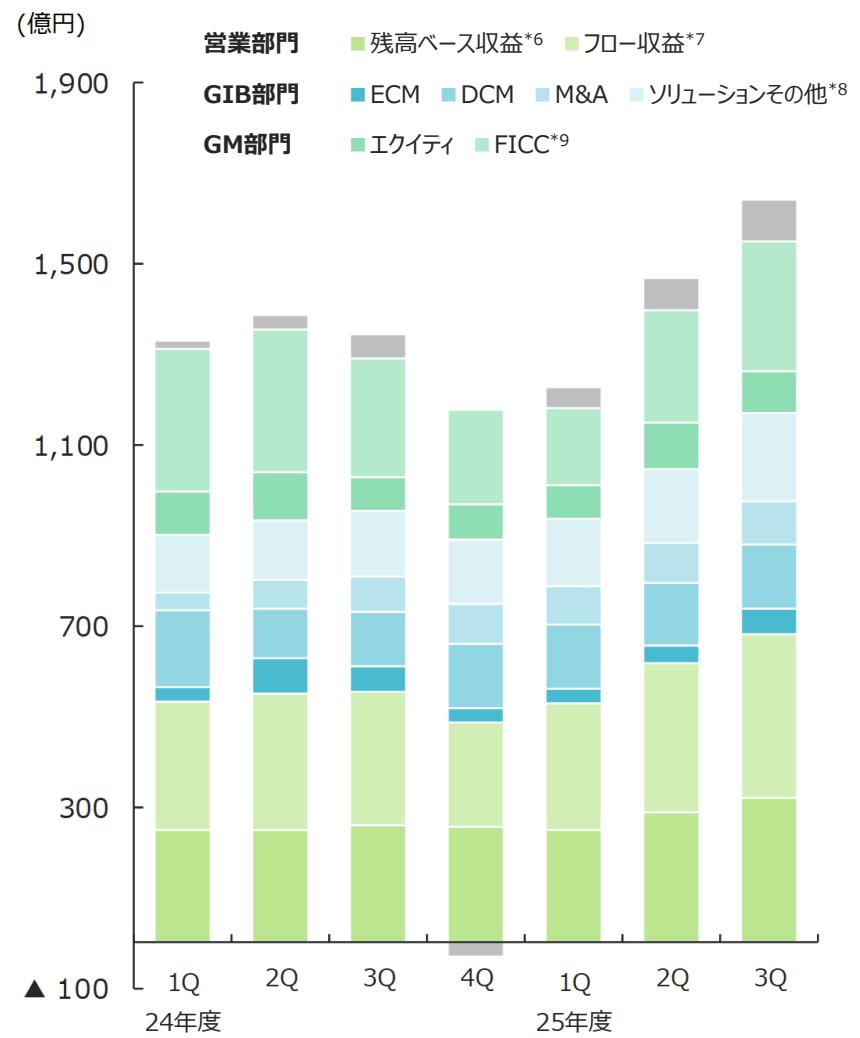
*2 2025年度より海外におけるデリバティブ事業の集計定義を変更、遡及反映を実施

*3 グローバル・インベストメント・バンキング部門 *4 グローバル・マーケット部門 *5 SMBC日興単体

*6 投資信託・保険の代行手数料、FW報酬等 *7 株式委託手数料等

*8 バランスシートやデリバティブを活用したソリューションビジネス等 *9 Fixed Income, Currency and Commodities

純営業収益



業績

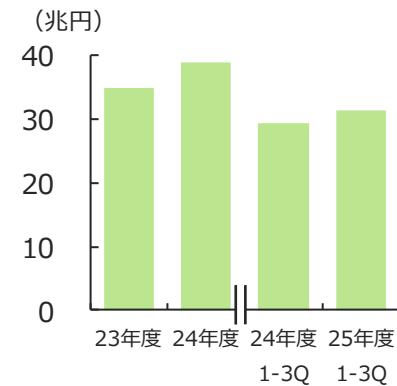
(億円)	24年度	25年度 1-3Q	前年 同期比
営業収益	9,681	7,654	+493
うち買物手数料	2,578	2,144	+210
ファイナンス	3,260	2,615	+176
うちSMBCCF	1,566	1,260	+88
信販・収納代行	817	623	+10
信用保証収益	832	659	+34
営業費用	▲9,824	▲6,772	△344
うち貸倒費用	▲1,218	▲1,107	▲93
うちSMBCCF	▲638	▲624	▲37
利息返還費用	▲1,415	0	△990
債務保証費用	▲81	▲95	▲20
経常利益	▲786	865	+835
うち営業外収益	61	57	+8
営業外費用	▲704	▲74	▲10
親会社株主純利益	▲643	764	+510
特殊要因影響除く^{*1}	759	764	+95
不良債権比率^{*2}	10.11%	10.95%	
利息返還損失引当年数^{*2}	10.4年	13.1年	

*1 過払債務の抜本的引当 (24年度上期: ▲880億円)、SMBCFSとの合併にかかる抱合せ株式消滅差益 (同: +466億円) を除く

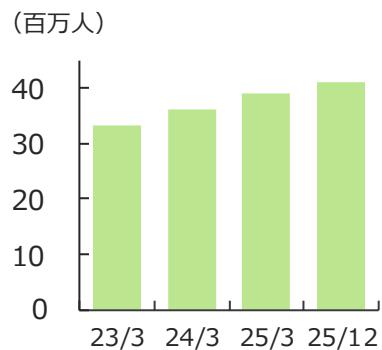
FE Creditのれん減損 (24年度: ▲750億円) は24年度のみ影響

*2 SMBCCFのみ *3 SMBCモビット再編影響を遡及反映

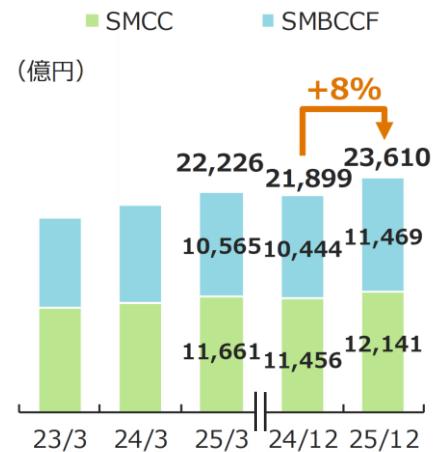
買物取扱高



会員数



ファイナンス残高^{*3}



保証残高^{*2}

